

8月5日(金)発行

当日の感動を
すぐお届け!!

特別協賛: TOSHIBA Leading Innovation >>>

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



バレエとオーケストラの壮麗な競演



8月4日(木) 洗足学園音楽大学「チャイコフスキー三大バレエ」 撮影：青柳聡

夏はバレエの季節。各所でガラ公演が華やかに開催されているなか、サマーミュージックではバレエコースを持つ洗足学園音楽大学による「チャイコフスキー三大バレエ」が行われた。演目は、牧阿佐美バレエ団クラスが「くるみ割り人形」、グローバルクラス(東京シティ・バレエ団)が「白鳥の湖」、谷桃子バレエ団クラスが「眠れる森の美女」のそれぞれ抜粋を上演。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団を秋山和慶が指揮するとあって、今年も大勢のお客様が来場した。

ダンサーは学生とバレエ団の

混成メンバーだが、バレエコースを創設したての昨年の公演はまだ学生が少なく、バレエ団ダンサー中心の舞台だった。今年は学生も増え、主役はバレエ団の看板ダンサーであるものの、それ以外の場面をリードしたのは学生たち。1年間の成長は著しく、それぞれがソリストとして舞台の中心で踊り、さまざまな表現やテクニックで魅せた。

主役陣は、「くるみ割り人形」金平糖の佐藤かんなの丁寧な踊りが印象的で、「白鳥の湖」オデットの中森理恵の研ぎ澄まされた動きに息を呑んだ。「眠れる森の美女」オーロラ姫の佐藤

麻利香、デジレ王子の三木雄馬のパ・ド・ドゥは気品に満ち、コーダでは三木のダイナミックで美しい跳躍も目を引いた。

秋山の指揮は、ダンサーに温かく寄り添いながらも、強い推進力をもって情熱的にチャイコフスキーを響かせる。オーケストラは気持ちいいほどたっぷり奏で、各場面ともバレエとオーケストラの壮麗な競演が実に楽しかった。ミュージックの音響のもとで観て聴くバレエ。来年の公演も大いに期待したい。

榊原律子(音楽ライター)



ゲネプロ後、出演者全員で記念撮影!

8/4 洗足学園音楽大学

お客様の声から♪

白鳥の湖のバレエが本当に白鳥みたいでした。(10歳・小学生・ニコニコ) / バレエ見たの生まれてはじめてです。楽しかった! 夢の国だった! (匿名) / オーケストラとダンサーが同じステージの上にいる、このバレエはミュージックならではの背景がないのが余計にダンサーの衣装とダンスを際立たせていました。(50歳・会社員・川崎のYoko) / 洗足音大のオケが素晴らしかった。(匿名) / 11歳と17歳の子供も感動してむりもせず、楽しんでいました。(母) / 各バレエ団とオケの技術、秋山先生のコーディネート力もさすがでした。(58歳・会社役員) / 今年はチケット注文した時にはサイドしか空いてなくて…来年は早めに注文して正面の席で鑑賞したいです。(でもサイド席でも充分楽しめました!) (60代) / 音楽とバレエにひたる優雅な時間を堪能することが出来て幸せです。(匿名) / チャイコフスキーのバレエ音楽はやはりバレエと一緒に観るのが最高。(52歳・会社員・しんのすけ)

NEXT!! フェスタサマーミュージック

明日はどう聴く? 20代応援団がナビゲート!

8月6日(土) 11:00 開演
イツ・ア・ピアノワールド
ピアノ：小川典子

8月6日(土) 18:00 開演
真夏のバッハ
松居直美パイプオルガン・リサイタル
オルガン：松居直美 ソプラノ：森 麻季(ゲスト出演)
フルート：濱崎麻里子(東京交響楽団フルート奏者)

ホールアドバイザーのひとり、小川典子は2018年に開催される第10回浜松国際ピアノコンクールで審査委員長に就任することが発表された。先日亡くなられた中村紘子をはじめ、日本を代表するピアニストが務めてきたこの大役を任されるのは、小川が今後の日本音楽界を背負って立つことを期待されているからだろう。ホールのアドバイザーとして、これまで意欲的な企画を行ってきた小川が今回取り組むのは、ステージ上に座る子どもたちにピアノ音楽の魅力を本気でぶつけるコンサート。子どもにどんな音楽を聴かせたらいいのかわからない? そんな人こそ是非この公演へ!

オルガンによる2時間の演奏会という、普通どうしても玄人向けの内容になりがちだが「真夏のバッハ」では、やっぱり一度は生で聴いてみたい《トッカータとフーガ》から、これぞバッハによるオルガン音楽の代表作《パッサカリア》まで、素人でも玄人でも多様な作品を一夜で楽しめる贅沢なプログラムとなっている。ホールアドバイザーとして誰よりもミュージック川崎のオルガンを知り尽くす松居直美が、豪華ゲストと共に多角的にバッハの魅力伝えてくれるだろう。

(小室敬幸 作曲/音楽学)

